

## 超音波検査士によるこれからの胎児超音波検査

伊達健二郎

### 抄 録

公益社団法人日本超音波医学会認定超音波検査士は、領域別に消化器、循環器、体表臓器、泌尿器、産婦人科、健診、血管に分けられ、各領域で専門性を発揮しており、会員数も増加している。一方、総医師数は30年前と比較し80%増加したが、産婦人科医師は20%減少している。その間の出生数は30%減少しているが、ハイリスク妊産婦の増加など業務は拡大し、産科医療は過重労働になっている。超音波検査士による超音波検査は積極的に行われており、今やどの領域も欠くことのできない生理検査になっている。これから益々過酷になると思われる産婦人科医療に、産婦人科領域の超音波検査士による胎児超音波検査は、今まで以上に必要になると考えられる。日本産科婦人科学会が推奨している方法や私共の行っている胎児超音波検査のチェックポイントを示す。

## Future of fetal echography performed by ultrasonographers

Kenjiro DATE

### Abstract

The number of JSUM Registered Medical Sonographers, who are categorized by specialty (gastroenterology, cardiology, superficial organs, urology, obstetrics, medical checkup, and blood vessels), is growing. On the other hand, while the total number of doctors has increased by 80% in comparison with 30 years ago, the number of obstetricians has decreased by 20%. Although the number of births has decreased by 30% in the past 30 years, the work of obstetricians has expanded, such as an increase in high-risk pregnant women, and obstetricians have become overworked. Echography is being performed by ultrasonographers in a proactive manner, and it has now become an indispensable physiological examination in every area. Fetal echography performed by ultrasonographers in the obstetrics area may be more necessary than ever in obstetrics medical care, where obstetricians will likely be more and more overworked going forward. I have presented checkpoints for the methods recommended by the Japan Society of Obstetrics and Gynecology and for the fetal echography that we perform.

### Keywords

ultrasonographer, obstetrics & gynecology, fetal echography

### 1. はじめに

日本超音波医学会認定超音波検査士制度は、超音波医学の進歩発展に伴い、公益社団法人日本超音波医学会が超音波検査の優れた技能を有する看護師・准看護師・臨床検査技師・診療放射線技師を専門の検査士として認定し、超音波医学並びに医療の向上を図り、国民の福祉に貢献することを目的とし、平成3年3月8日より施行された。認定専門検査士は、公益社団法人日本超音波医学会認定超音波検査士(英文名「JSUM Registered Medical Sonographer」、略称「RMS」という。領域別に消化器、循環器、体表臓器、泌尿器、産婦人科、健診、血管に分けられ、年1回の認定試験、5年毎の資格更新の認定を

受けなければならない。

現在、超音波検査士による超音波検査は積極的に行われており、今やどの領域も欠くことのできない生理検査になっている。産科領域でも同様に携わられてきているが、産婦人科領域の超音波検査士は全体の2%程度にとどまっており、今後産科医療に携わる検査士が増加することを願うと同時に、これから益々過酷になると思われる産科医療に、産婦人科領域のRMSによる胎児超音波検査は、今まで以上に必要になると考えられる。

### 2. 産科医の現状

30年前と比較し、総医師数は80%増加したが、産婦人科医師は20%減少している。その間の出生

広島赤十字・原爆病院産婦人科

Hiroshima Red Cross Hospital, 1-9-6 Senda-machi, Naka-ku, Hiroshima 730-8619, Japan

Received on January 5, 2018; Accepted on January 17, 2018 J-STAGE. Advanced published. date: April 2, 2018